

総合型選抜 2023 年度過去問題 経営学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

モチベーションという用語は、20 世紀初頭、人をコントロールすることに対する社会的な関心の高まりに伴って普及していった。特に、人を操作したり、誘導したりするニーズの高い、経済、教育、犯罪、広告といった分野でその傾向が顕著だった。たとえば、犯罪分野の専門家たちは罪人を矯正する必要に迫られていたり、広告業界では特定の物品を買わせるにはどうすればよいかと頭を悩ませていたりしたわけである。

今日、モチベーション研究が最も盛んな二大領域として「教育」と「経営（マネジメント）」が挙げられる。教育心理学では「学習意欲」が、産業・組織心理学では「ワーク・モチベーション」がそれぞれ代表的な研究分野としてすでに確立している。その理由も以上のことから明らかだ。今も昔も、教師にとっては勉強させること、経営者にとっては働かせることが職務上の切実な課題だからである。このように、モチベーション研究の隆盛を支えてきたのは、人をコントロールすることに対する関心やニーズだったのだ。

有効性や有用性を求める世間とモチベーションを研究する学界が、ともに着目したキーワードが「達成」である。ここでいう達成とは「業績」や「成果」、そして、「それらを生み出す行為」（パフォーマンス）を指す。

たとえば、企業は業績を高めるような仕事を労働者に要求するだろうし、学校は子どもたちに対して学業成績の向上を目指して勉強するように仕向ける。このように社会の側は個人に対して「達成」を強く求める。

一方、モチベーションの研究者は、どのような「動き」を研究対象とするかを決めなければならなかった。そこで彼らの多くは、意味のある動きやその結果の指標として達成に着目し、それをテーマとして取り上げることにする。その結果、モチベーションは達成に関連する行動やその成果を説明する学問分野へと発展していったというわけだ。心理学者と人のコントロールを求める社会の側は、「達成」というキーワードを媒介として利害が一致したのである。

象徴的なのが、次の有名な「公式」だろう。

$$\text{達成（パフォーマンス）} = \text{能力} \times \text{モチベーション}$$

この式は、達成が「能力」と「モチベーション」の積であることを示している。つまり、①達成は当人の能力とモチベーションに規定されること、②能力が高いほど、あるいはモチベーションが強いほど、達成も大きくなること、③たとえ能力があっても、モチベーションがゼロであれば成果が出ないこと、④いくらモチベーションがあっても能力がゼロであれば成果が出ないことを意味している。

たとえば、「Aさんは、能力はあるのにやる気がないから業績がパッとしない」、「Bさんはいつもやる気満々だけど、能力が今ひとつだから業績が伸びない」、「Cさんが業績優秀なのは能力もやる気もトップレベルだからだ」といった説明がこの式によって可能になる。

かくして、モチベーションは確固たる学術用語として認められ、「モチベーションが達成を左右する」という発想が「価値ある図式」として確立したのである。

（中略）

ここで発想を転換しよう。翻って考えてみれば、達成とはわれわれの生活に埋め込まれた日常的な活動でもある。

たとえば、資格試験の合格を目指している人がいる。その人にとっての達成は「合格」であり、そのために毎日、何時間も勉強しているとすれば、それはまさしく達成に向けたモチベーションの事例だといえる。

達成というと「全国大会での優勝」といった特別の成功を思い浮かべるかもしれないが、偉業を成し遂げることばかりが達成ではない。たとえば、ボランティア活動に応募する、海外旅行の計画を立てる、今日からダイエットを始める、電車で席を譲るといった身近な日常的行為も、ささやかな達成である。(中略) このように考えると、達成とは日常のひとコマであり、われわれはその一つひとつの達成体験に大小の喜びを感じながら生活していることがわかる。

ただ、そこには個人差があり、「何を達成とするか」、「どの程度で達成とみなすか」は人によって異なっている。「マイホーム」の購入を達成だと思う人もいれば、思わない人もいる。なかには「一等地に建つ豪華なマイホーム」でないと達成とみなさないという人もいるだろう。その一方で、どこの場所であろうと、どんな小さな家であろうと「マイホーム」であれば達成だと思う人もいるのである。

つまり、達成とは、当人にとって価値ある行為をすること、あるいは価値を生み出す行為をすること、特に、それをやり遂げることを指す。他者や社会が求める業績や成果ばかりが、達成ではないのだ。

どんな種類の達成でもよい。達成が一切ない生活や人生を想像してみてほしい。生きる意味を感じることができるだろうか。

実際、達成感(「やろうとしていることがやり遂げられた」という感覚)は幸福感と関連しているという。また、達成は**ウェルビーイング**(身体的、精神的、社会的に良好な状態)の構成要素のひとつとしても位置づけられている。達成はわれわれの日常生活に喜びや充実感をもたらし、心身の健康をも促すのだ。そしてこの達成を支える心理的な要因が、まさにやる気や意欲なのである。

出典：鹿毛雅治(2022)『モチベーションの心理学』、中公新書、1・5 頁

問1 上の文章を 400 字以内で要約しなさい(字数には句読点を含む)。

問2 これまでの人生経験の中で、自分が「達成」した最も印象的な事柄について、その理由を含め、400 字以内で説明しなさい(字数には句読点を含む)。